

# ヒューマンケア学部 鍼灸学科

## 教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各学科・コースは、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー、以下CP）に基づき、それぞれの特色を活かした教育方法による授業を行っています。さらに、資格取得科目の充実など、教育方法に工夫を重ねながら、教育内容の向上に取り組んでいます。また、大学全体として、全学部生が共通して履修する必修科目、「フレッシュセミナー」「アドバンスセミナー」においては、セミナー担当教員は、各学部・学科・コースのCPに基づく学修指導の他、学生生活全般にわたる指導を少人数教育で実践しています。これにより学生は、社会人として求められる常識や教養等の汎用的能力と、各自の専攻分野や関心領域に関わる幅広い知識をバランス良く身につけることができます。この「セミナー」は、学生の様々な相談にも応じることから、キャリア教育の役割も果たしています。

### 【教育方法】

基礎科目では、社会人・医療人が教養を展開するために必要となる科目や、国際性を養うための語学やコミュニケーションに関連する科目も開講しています。専門基礎科目・専門科目では、基礎・臨床医学と東洋医学の両面から統合的な病態把握に必要となる系統講義を、また鍼灸技術の向上に加え適切な診断、治療方針と客観的な治療効果の評価法の修得を目標とした実習を配置しています。

### 【教育の特色ある工夫】

- ・2、3年次の「形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」では、身体の発生過程や形態機能学的な知識とともに体表解剖学の理解を充実させることを目的に、系統講義と演習を段階的に行っています。
- ・「基礎鍼灸セラピー実習」「鍼灸実習Ⅱ」及び「臨床鍼灸実習Ⅰ」では、鍼灸施術の様子を鍼灸実技実習室に設置された実習用カメラで細部まで確認することができ、鍼の刺入方向や進度を的確に指導しています。
- ・4年次の「鍼灸セラピー総合実習」では、実学的に臨床能力を修得させるための参加型鍼灸臨床実習を全て学内付属臨床施設で実施しています。実習は、①実習前学修、②実習、③実習後学修として症例報告を約3週間で連続的に学修できるように計画し、能動性、協同性や問題解決能力の修得を目標とします。
- ・「卒業研究」では、研究課題に対し主体性をもって他の学生と協働し思考及び判断する能力、更には客観的根拠に基づくプレゼンテーション能力を修得させるため、ゼミナール形式によって指導しています。